

社会教育をめぐる昨今の状況～国、県、市をめぐる状況～

生涯学習文化課

1. 国の動向について（資料 1-1）

「第 12 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（令和 6 年 6 月、中央教育審議会生涯学習分科会）

- ・本資料は、第 11 期分科会の議論^{*1}や第 4 期教育振興基本計画^{*2}を踏まえ、「全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開」をテーマに、特にリカレント教育、障がい者・外国人の生涯学習、社会教育人材の養成・活躍に重点を置いて審議されたものである。
- ・人生 100 年時代、デジタル化、人口減少等の社会変化に対応し、誰もが生涯学び続けられる環境整備が急務である。生涯学習は、個人のウェルビーイング向上、地域コミュニティの基盤形成、社会的包摂の実現に不可欠な役割を担う。特に、労働生産性向上の観点からも、リカレント教育（リスキリング・学び直し）の推進が重要課題となっている。
- ・分科会における重点議論事項については下記のとおりである。

重点議論事項①：リカレント教育

社会人の学びの現状（低参加率、OJT 偏重）と課題（費用・時間、情報不足）を指摘。高等教育機関（大学・専門学校等）と企業、個人の連携による「学びと成長のエコシステム」構築を提言。多様なプログラム開発、情報提供（マナパス等）、学習成果の評価・活用、企業の意識改革が必要。

重点議論事項②：障がい者の生涯学習

学習機会の不足が課題。学校段階からの意識啓発、多様な主体（福祉・民間等）との連携、本人主体の学びを支える仕組み（情報提供、合理的配慮）の構築を求める。

重点議論事項③：外国人の日本語学習

在留外国人増加に伴い、共生社会構築のため日本語教育の重要性が増大。認定日本語教育機関制度や登録日本語教員の国家資格化を踏まえ、質の高い教育提供体制の整備、企業・自治体との連携強化が必要。

重点議論事項④：社会教育人材

地域課題解決における社会教育主事・社会教育士の役割が増大。養成（講習定員増、多様な受講形態）、配置促進（未配置市町村への働きかけ）、認知度向上、ネットワーク化等による質・量の向上が求められる。

重点議論事項⑤：今後の展望

リカレント教育、社会的包摂、社会教育人材育成は相互に関連する。国、自治体、企業、教育機関等が連携し、生涯学習を通じたウェルビーイング実現社会を目指す具体的なアクションが期待される。社会教育の現代的意義を再定義し、推進方策の更なる検討が必要。

※1 第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

- ・人生100年時代・VUCAの時代において生涯学習、社会教育の従来の役割に加え、「ウェルビーイングの実現」、「社会的包摂の実現」、「デジタル社会への対応」、「地域コミュニティの基盤づくり」の役割が重要になることを指摘している。
- ・今後の生涯学習、社会教育の振興方策について、「地域と学校の連携・協働の促進」、「リカレント教育の推進」、「多様な障がいに対応した生涯学習の推進」などを挙げている。

※2 第4期教育振興基本計画（資料1-2）

2. 県の動向について（資料1-3）

「第4期千葉県教育振興基本計画」（令和7年3月、千葉県教育委員会）

- ・本計画は、令和7年度から令和11年度までの5年間を計画期間とし、千葉県教育の目指す姿とその実現に向けた施策を示すものである。教育基本法に基づく基本計画であり、千葉県総合計画の教育分野における個別計画としての性格を持っている。
- ・第3期計画期間中、自然災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症拡大、国際情勢の不安定化など予測困難な事態が生じ、教育活動に大きな影響があった。いじめや不登校は増加・深刻化し、教員不足や多忙化も喫緊の課題となっている。

また、人口減少・少子高齢化、急速な社会変化（VUCA時代、DX、グローバル化）、経済・雇用情勢の変化（人材不足、ミスマッチ）、多様なニーズへの対応（特別支援、外国籍児童生徒、貧困等）、学校・家庭・地域の連携希薄化など、教育を取り巻く環境は大きく変化しており、これらの課題への対応が求められている。

- ・基本理念として「人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る『人』の育成～一人一人が可能性を最大限に伸ばし、自分らしく活躍するために～」を掲げ、以下の3つの基本目標と10年後の目指す姿を示した。
- ・基本目標は下記のとおりである。

基本目標①：子どもたちの自信を育む教育の土台づくり

質の高い学校教育を推進し、教員の確保・質向上と働きがいのある環境整備、安全・安心な学校づくり、特別支援教育や多様なニーズに対応した教育を進める。

基本目標②：未来を切り拓く「人」の育成

確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、主体的に学び人生を切り拓く力、郷土と国を愛しグローバルに対応する力、社会で活躍できる人材を育成する。キャリア教育や幼児教育も充実させる。

基本目標③：地域全体で子どもを育てる体制と全ての人が活躍できる環境づくり

学校・家庭・地域の連携・協働を強化し、家庭教育支援を充実させる。人生100年時代を見据えた生涯学習やリカレント教育、文化芸術・スポーツ活動を推進する。

- ・上記の基本目標においては、以下の3つの施策横断的な視点を重視し、施策を推進する。
「多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の形成を通じたウェルビーイングの実現」、「教育デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進」、「産業と教育との連携強化

による人材育成」

- ・特に、教員の確保・育成・働き方改革、いじめ・不登校等への対応、ICT活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、地域や産業界との連携強化、生涯学習機会の提供などに重点的に取り組む。

3. 市の動向について

君津市総合計画、君津市教育大綱

- ・令和4年度から令和12年度を計画期間とする、「君津市総合計画」で、「生涯学習」、「文化・芸術振興」について、それぞれ令和8年度までに達成を目指すKPI（業績評価指標）を定めている。

指標	目標値	R5実績	R6実績
公民館利用者向けアンケートでの公民館事業における満足度	90.0%	91.5%	90.2%
図書館利用者向けアンケートでの利用満足度	70.0%	66.8%	78.4%
市民文化ホール利用者の満足度	100%	98.3%	97.6%
文化資源を活用した事業の満足度	80.0%	96%	87.7%

総合計画 施策の展開（一部抜粋）

3-3 生涯学習

①身近な場所で学び続けられる環境の整備

- ・君津市社会教育施設の再整備基本計画に基づく「第1期プラン」に沿って清和公民館の複合化等の再整備を進めます。
- ・周南公民館、小糸公民館、小櫃公民館については老朽化や使用形態など、各施設が置かれている状況を総合的に考慮して計画的に再整備を進めます。
- ・中央図書館の老朽化対策を計画的に行い、快適に学ぶことのできる環境を提供します。

②子どもも大人も学び成長し続けられる機会の充実

- ・デジタル技術の活用による学習機会の提供に取り組みます。
- ・公民館において、生きがいづくりに役立つプログラムや、暮らしの課題解決に役立つプログラム、子どもたちの夢を育むプログラムなど、多様な事業展開に取り組みます。
- ・公民館を使ったことがない人にも参加しやすい事業の工夫や、地域内外の交流を深める事業展開で、より幅広い人に活用される公民館づくりに取り組みます。
- ・地域住民、団体、企業などと連携・協力することで生涯学習メニューの充実を図ります。

③自主的に学び続けられる読書環境の整備

- ・絵本の読み聞かせやビジネス支援講座など各年代に対応した参加型イベントにより、市民が多種多様な資料に接する機会を充実させ、図書館の利用促進を図ります。
- ・社会情勢の変化や市民ニーズを的確に把握した図書館資料を収集し、市民が必要とする情報を入手しやすい環境づくりを推進します。
- ・図書館サービスのデジタル化を推進し、図書館の利便性向上を図ります。

3-4 文化・芸術振興

①多彩な文化・芸術に触れ親しむことができる環境づくり

- ・様々な年代の市民が文化・芸術に触れ親しむことができる環境づくりを進めることで、文化・芸術活動への積極的な参加を促します。
- ・文化振興のための市民活動団体を支援し、活動を継続させることで、伝統文化の継承を図ります。

②文化・芸術に係る環境の整備

- ・君津市民文化ホール等の施設の適切な維持管理を図ります。
- ・資料館の施設の立地等を含めた今後のあり方について検討を進めます。

③地域の伝統文化を次世代につなげる環境づくり

- ・学校と連携した歴史学習等を通じて、地域に残る伝統文化の保護と継承を図ります。
- ・市内外への文化財の魅力発信や文化財を活用した学習機会の拡充により、伝統文化の継承を図ります。
- ・文化財の所有者や保存団体等が行う修復や継承活動を支援するとともに、地域に残る伝統文化などを文化資源として周知を図ります。